

東日本大震災により  
被災された方々、ご家族  
の皆さまに心より  
お見舞い申し上げます。

蓮田病院職員一同

日本はひとつ

## 蓮田病院理念

“思いやりのある やさしい医療”  
“最新の高度医療”

発行：蓮田病院広報部  
連絡先：048-766-8111 蓮田病院総務課  
発行日：平成26年10月1日

## ノロウイルスにご注意！！



薬剤師 薬剤部部長  
相澤鉄也



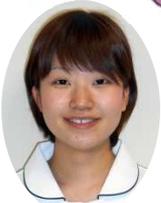
ノロウイルス感染症は日本ではかつて  
“お腹の風邪”と呼ばれており、名前が  
確定したのは2000年になってからです。

発生時期は冬期に多く、感染はほとんどが口からです。感染力が強く、感染すると1～2日で下痢、嘔吐、腹痛、発熱等の症状がおこり、一般的に症状は2～3日で治まります。しかし、高齢者や幼児など抵抗力の弱い方では重症化することもあるので早めに医療機関を受診しましょう。感染の原因としては感染した人を介して汚染した食品を食べた場合や汚染された二枚貝を生あるいは十分に加熱しないで食べた場合、患者の便や吐物から二次感染した場合などが考えられます。予防するにはトイレや調理の際などに石鹸と流水で十分手洗いが基本です。また、ノロウイルスは熱に弱く、85℃、1分以上の加熱で感染を防ぐことができますので調理の際は中心部分まで十分火を通しましょう。もし、ご家族が感染した場合、吐物の処理などには使い捨てのビニール手袋やマスクを着用することが重要です。

繰り返しになりますが感染予防の基本は手洗いですので十分気を付けて寒い時期を乗り切りましょう。



## インフルエンザについて



検診センター 保健師 鈴木静香

日本ではインフルエンザは12～3月に流行します。これは、温度が低く乾燥した冬には、空気中に漂っているウイルスが長生きできるからです。

また、乾燥した冷たい空気でおたの鼻の粘膜が弱っています。人の移動でウイルスが全国的に広がるのもひとつの原因だと言われており、これらの原因が重なって流行しやすい時期となっています。

今回はインフルエンザに罹らないための予防法についてお話ししたいと思います。

### ＜日常生活における予防法＞

- ① 人ごみを避け、外出時にはマスクを着用しましょう。
- ② 帰宅時には「手洗い」「うがい」をしましょう。
- ③ 栄養と休養を十分にとりましょう。
- ④ 室内では加湿と換気をよくしましょう。



また、感染を広げないためにも、感染の可能性がある方は、咳やくしゃみをおさえた手、鼻をかんだ手はただちに洗うようにし、周囲へ配慮しましょう。**最大の予防法は、流行前にインフルエンザワクチンの接種**を受けることです。ワクチンの接種で、インフルエンザに感染しにくくなりますし、かかったとしても軽い症状ですむことが証明されています。当院2階検診センターでインフルエンザワクチンの接種を受けることができます。冬になる前にワクチンの接種を受けていない人は、受けることをおすすめします。

## 高齢者の消化器外科手術

(リハビリの活用)



医師 消化器外科部長 山口真彦

高齢化社会の中で80歳以上の高齢者が救急搬送されるケースも増加し、血液検査やCTなどを迅速に行い、疾患が来院時に特定されるケースも多くなってきました。

その際、内視鏡的治療が可能な疾患であれば内視鏡治療を行います。開腹手術でしか治療出来ない疾患の場合、ご家族が心配されることはこんな高齢で手術に耐えられるだろうかということではないでしょうか。そんなとき一つの目安としてお話ししていることは「体の衰えには個人差があり実年齢だけでは判断できませんが、特別な疾患がなく、歩いて、ご飯を自分で食べておられれば大体手術できます。」ということです。その確認の上で心エコーを含めた術前検査を行い、特別な異常がなければ手術となるわけですが、特に85歳以上の超高齢者で問題になるのが病院生活という長期臥床生活による日常生活動作(ADL)の低下と認知症の進行です。消化器外科では絶食という術前処置もまたADLや認知症に関してマイナス要因となります。したがって出来るだけ早く経口摂取を再開させることが重要であり、ADLの低下を防ぐため積極的なリハビリ療法の導入を行い、術後回復を促進させ、ご自宅での生活行動が維持される様努めております。

一例として胃癌による極度の貧血で他院より転院されてきた90歳の患者様をご紹介します。CTで胃癌を指摘されて来院され、内視鏡検査で胃癌を確認し、内服していた血液サラサラ薬を中止、出血を促す胃酸分泌を止め、輸血、鉄剤で貧血を改善させました。その上でご家族に、貧血は胃癌からの出血が原因で、根本的に治療するには胃切除が必要であることを説明しました。認知症はありましたが、入院前は歩いて、ご飯も自分で食べておられたことを確認、心・肺・肝・腎に異常なく、病変も胃に限局して手術可能と判断し御家族に説明したところ手術に同意されました。食事は入院2日目より再開しており、手術5日前よりリハビリを開始し、胃切除(2時間半)を行いました。術後もリハビリを行いつつ、経口摂取を術後3日目に再開、4日目転倒して脳内出血を認めましたが軽快し、その後良好な経過で13日目に退院されました。

このように当院では、手術前後にリハビリ療法を活用することにより、術後経過の促進と日常生活へのスムーズな移行を目指しております。



# 感染対策委員会から、患者様や御家族様へのお知らせ

看護部 感染対策委員会 委員長 大谷吉明

医療施設において患者様の高齢化や医療の高度化、そして使用薬剤の多様化などに伴い、病院内感染が問題となっています。

院内感染とは、病院において様々な疾患を持った患者様が、検査や治療・ケアを受ける状況下で、もとの疾患とは別にかかった感染症です。感染症は、人の身体に常在する微生物や外から入ってきた微生物によって起こります。微生物が身体の中に入ってきてても、全てが問題となる訳ではないのですが、抵抗力の弱い患者様にとっては問題となってくる場合があります。

そのようなことから、安全な医療の提供と信頼を確保するためには病院内感染対策は重要であり、より適切な対策や予防が必要とされています。

当院では、院内感染対策委員会や看護部感染対策委員会を組織し、病院一体となって病院内感染対策に取り組んでいます。感染対策の活動として、感染対策チーム(ICT)を組み、職員研修会や院内ラウンド、感染対策技術の向上などを行い、患者様に安全な療養環境を提供するために、日々努力を重ねています。感染対策チームのメンバーは、感染管理認定医師を含む、医師・薬剤師・看護師・検査技師・栄養士・理学療法士・事務職員など様々な職種によって構成されています。チームが協力し合い、お互いの専門分野をもって感染対策に関する様々な事項の提案、実行、評価を行っています。

また近年、市中感染型耐性菌なども問題となっており、地域の問題を共有するため、近隣の医療施設と連携を取り、意見交換などを行っています。



## ・・・当院を訪れる全ての方へのお願い・・・

### ◎ 手洗いをしましょう。

感染対策は手洗いが基本となります。ご協力をお願いします。

- ・各病室や外来受付に、手指消毒薬を設置しております。入室時・退室時にご利用ください。
- ・医療スタッフは、皆様に接する前に手指消毒を行います。



### ◎ 咳や熱がある場合には、必ずマスクを着用し、医療スタッフに一言お伝えください。

- ・マスクは総合受付前・セブンイレブンにて販売しております。
- ・総合受付、各診療科受付にて、症状をお伝えください。



### ◎ 医療スタッフの手袋等使用をご理解ください。

医療スタッフは、感染予防のために採血や注射、オムツ交換の処置の時に必要に応じてマスクやビニールエプロン、使い捨ての手袋を使用させていただきます。ご理解をよろしくお願いいたします。



## 編集後記

秋といえば食欲の秋、読書の秋、芸術の秋などさまざまですが、季節の変わり目で体調を崩す人も多いと思います。

10月はハロウィンの季節でもあるので、私はカボチャを食べて体調を崩さないようにしたいと思います。

かぼちゃには体を温める効果があり、冷え性の方にはうってつけの野菜です。

温かいスープにして飲めば保温効果は抜群で、体力回復にも効果があるそうです。

いろいろな秋がありますが、自分だけの秋を過ごしてみるのはいかでしょうか。

広報委員 細野大地

## 蓮田病院公開講座のお知らせ

日時：平成26年12月5日(金) 14:00~15:10

場所：蓮田病院内 C棟6階

講師：1. ロコモティブシンドロームって

ご存じですか？

整形外科病棟 看護師長(佐々木久美子)

2. 上肢(手・肘)の痛みとしびれ

医師 整形外科医長(寺山恭史)

参加費：無料

問い合わせ：蓮田病院 病診連携室

TEL 048-766-3660

※諸事情により講師が変更になる場合がございますのでご了承ください。